



## Culture Area

新しさも歴史も景観の中に築かれて

流れゆく時代の中で  
景観が未来に  
伝えるもの

**N.** 博多区にある住吉神社。全国住吉神社の地源と考えられ、航海安全や船舶守護の神として知られている。現在の本社は、黒田長政が1623年に再建したもの。仏教源流の古代建築様式を伝え、「住吉造」として国の重要文化財に指定されている。そんな由緒ある姿も、地域の人々に懐れ親しまれている。O.境内奥に佇む能楽殿も情緒溢れる。

**P.** キャナルシティから川沿いを歩いて明治通りに向かうと川岸に博多リバーラインの姿が見えてくる。  
**Q.** 博多リバーラインに隣接する博多座。赤提灯がトレードマークのこの館内では、月替わりで歌舞伎やミュージカル、演劇などが催されている。博多リバーラインの中には、アジア美術館も設けられ、新しい博多のカルチャースポットとして賑わう。

後世に受け継がれていくもののひとつに文化がある。各々の時代を映す文化は、福岡の景観の中にもくつきりと残り、過去と現在を未来へ運ぶ。  
車の激しい往来も気にせず、どしんと構えた威厳ある鳥居が大通り沿いに立つ。鳥居を抜けると、今までの喧嘩が嘘のように消えていく。深い緑の木々に覆われた境内は、まさに都会の中の小さな森だ。漂とした空気に導かれながら、奥へ進む。そこに静かに佇むのは、能楽殿。一瞬、遠



い時代に誘われる。人から人へ文化が伝えられ、育まれていった時間を景観の中に垣間見る。  
毎日のように多くの人々が集い、歌舞伎や様々な舞台に触れ、楽しむ文化施設も数年前博多に誕生した。館の中では人々が、何百年も受け継がれてきた伝統芸能に酔いしれる。そして、一歩外に出れば、福岡の新しい景観が創造される。  
福岡のまちに文化と時が確実に刻み込まれているのだ。

